

町の魅力と課題を再確認



バスツアーの初めは十勝太遺跡展望台。素晴らしい景観の中で、開拓以前からの歴史を学び、現代社会の問題を考える一日のスタートだ

浦中バスツアー 町内巡る

浦幌新聞



2015年(平成 27年)
10月26日(月曜日)

発行元
うらほろスタイル
推進地域協議会

9月8日(火)、浦幌中学校3年生による「地域の魅力再発見!バスツアー」が行われました。このバスツアーのねらいは、町内の歴史・文化・産業を再確認することにあります。講師として博物館学芸員の持田誠さんをお迎えし、町内をバスで巡りました。

浦幌中学校の3年生は総合学習「郷土振興」の中で、浦幌町について深く考え、最終的に地域活性化のプレゼンテーションを町民の皆さんに向けて行う学習を行っています。今年度は「人口減少」をテーマに、学生などの若者に目を向けて地域活性化の学習を進めています。生徒はこれまで、産業講演会で町について詳しく学び、さらに修学旅行で

は函館市で地元住民・観光客・学生を対象にアンケート調査を行い、他の都市と浦幌町の違いを学んできました。

今回のバスツアーでは、アンケート調査での生徒の希望をふまえ、例年のバスツアーで巡った豊北原生花園や十勝太遺跡展望台などに加え、廃校になった常室小学校や浦幌高校も見学するという内容でした。生徒は浦幌の素晴らしい景色の中に身を置き、浦幌の魅力を体感し、子どもたちが減ったことで廃校になってしまった学校を実際に間近で見て、浦幌の現状について



廃校になった常室小で、校舎内に残されたアルバムを見て、当時の暮らしに思いをはせる

も改めて考えるきっかけとなったように感じました。昼食には「浦弁」を食べ、浦幌の海産物の美味しさ、そして浦幌中学校の先輩が考えたものが実際に商品化されている、ということを実感する機会となりました。

子どもたちはこのバスツアーを通して、浦幌町の魅力とともに現状や課題を再確認しました。これをもとに今後の地域活性化の企画提案につなげていってもらえればと思います。子どもたちの提案がどんなものになるか、今からとても楽しみです。(地域おこし協力隊 森彩花)

「命を大切に」心込めて

厚内小 浦幌小 漁師が指導、サケのさばき方教室

9月11日に厚内小学校で、厚内小と浦幌小の6年生を対象にした「サケのさばき方教室」が行われ、参観させていただきました。

一番印象に残っていることは、サケをさばく漁師の方が「この部分も食べる」とができるんだよ」と、食

べられる部分やおいしい食べ方を教えてくれたり、「ここの部分をきれいにすると、見た目がきれいになるんだよ」などと子どもたちにも説明してくれたりと、大切に丁寧にサケをさばかれていたということです。漁師の皆さんは、サケを獲

ることを職業にしています
が、サケをすごく大切に扱
っていると思いました。そ
して、命を無駄にしないよ
うに、食べられるところは
しっかり食べて、感謝をす
る「命を大切にすること」
を心掛けているのだと感じ
ました。



漁師の皆さんから直接指導を受け、地域産業に触れる子どもたち

また、漁師の方々が直接子どもたちにさばき方を見せることによって、子どもたちは漁師の方々のあたたかい心を感じることができ、「浦幌にはこんなことができる人がいたんだ」という地域の人に対する尊敬の気持ちがあふれ、浦幌の産業に直接触れることができたのではないかと思います。

は見ることのできない、たくましさがありました。昼食の時間には、サケを使った料理を作っていただきみんな「おいしい！」と言いながら食べていました。

私たちは、この「サケのさばき方教室」を参観し、改めて学校の中で地域の教材を取り上げること、が、地域の産業に自信を持

最初は遠くから見ていた子どもも、グループに分かれてサケをさばく時になると、だんだんサケに近づく様子が見られました。サケのさばき方教室の時の子どもたちは、率先して「やりたいです!」と言う子ども

つようになり、地域に対して愛着を持つようになることにつながることを学びました。これらのことを活かして、大学でも地域に愛着を持った子どもを育てるための教育について、深く学んでいきたいと思います。



きれいな切り身ができたよ



皆でおいしくいただきました

子どもの元気と地域の優しさが力に

教育大釧路校 浦幌小に2人 5週間の教育実習振り返る

私たち北海道教育大学釧路校3年目の学生2名が、8月24日から9月25日までの5週間、浦幌小学校で教育実習をさせていただきました。教育実習を通して、浦幌の子どもたちはとても素直で、優しい子が多いと感じました。担当している学年の子どもたちだけでなく、他の学年の子も含めて、たくさんの子が積極的に話しかけてきてくれました。そのおかげで、最初はとても緊張していましたが、だんだん緊張もなくなってきました。次の日の授業の準備を夜遅くまですることもありましたが、子どもたちに元気をもらい、とても楽しい5週間を送ることができました。



民泊の巡回中に農家の方と談笑する教育実習生



お別れに涙する児童と実習生



感謝の言葉に包まれ最後の授業

教育実習の中で、民泊などの体験学習を参観させていただく機会もあり、子どもたちが学校で見せる表情とは少し違う、実際の浦幌の自然とふれあっていたい

きとしていた表情を見ることができました。浦幌の産業を直接体験することのできる機会を通して、子どもたちが浦幌の人たちのあたたかさ、自然の豊かさを実感し、成長していく様子が感じられました。

子どもたちの様子を見て、地域の人たちと直接関わり、地域の産業にふれるという体験が子どもにとって宝物になり、地域を好きになるきっかけになると思いました。改めて、地域の人たちと関わり、産業を体験することによって、子どもが地域への愛着を持つようになるので、地域のよさを子どもたちに伝えることができた。また、教育実習の期間中に、浦幌神社のお祭りや御神輿をかつぎ、You遊ナイトで浦幌の中学生が考案した浦幌産の野菜を使ったピザを売るのを手伝いし、浦幌神社での舞踊・空手の奉納を参観するなど、たくさんの方の地域行事に参加させていただきました。これらの行事に参加させていただく中で、たくさんの方と接することができ、私たちが教育実習生だと知ると励ましの言葉や気遣いの言葉をくださり、浦幌の人はとても優しく、思いやりのある方だと実感しました。

私たちは、浦幌の人たちの優しさに助けられ、励ましの言葉をいただきながら、充実した教育実習を送ることができました。浦幌で出会った人たちに感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。

(今西宏美・竹本朱里)